



グランシップマガジン

[ジー] vol.52

GRANSHIP magazine

● Autumn 2011



series わが羅針 第52回

吉田 簗助

SPECIAL-2

RETURN TO FOREVER

RETURNS!

しずおかアーティスト・リレー ③

心経造形作家 丘野 巖麗

次世代を創る顔

映画監督 池田 千尋

村松友視の文化漫遊③7

SPECIAL-1

クラシックで
幸せになる秋冬。

coming soon I

グランシップ名人会・其の九「江戸の風景」

coming soon II

2011年しずおか連詩の会

coming soon III

運命に翻弄されながらも強く生きた女性たち

おんな講演会

ART:MICHIAKI MOCHIZUKI

GRANSHIP
静岡県コンベンションアークセンター



『東南角部屋二階の女』
亡き父親の借金により祖父の土地を売ろうと考える男と、
その後輩と、男の見合い相手が古アパートに住むことに…。
場所と時間を共有して生まれる、「人生の休憩所」の物語。
出演／西島秀俊、加瀬 亮、竹花 梓、塩見三省、
高橋昌也、香川京子 ほか
(104分／2008年公開)



『とんねるらんでぶー』
三ヶ日町の心霊トンネルと噂されるトンネルが舞台。退屈な田舎町から
出て行きたくて仕方がない女子高生たちのある何日間の物語。
出演／吉永 淳、鈴木卓爾、美保 純、森田泰行、
藤田憲右(トータルテンボス)、大村朋宏(トータルテンボス)、
平島啓史 ほか (33分／2011年公開)
静岡県内での上映予定：9/23 アクトシティ中ホール
11/3 静岡文化芸術大学講堂

映画監督

池田 千尋

人間がちゃんと生きている。
そんな作品を描いていきたい。



「映画を作りたい」——中学生の時に芽生えた
一つの思いが、ずっと彼女を突き動かしてきた。
脚本も撮影も監督も出演もした高校時代。初め
てチームで制作し、「他人とバチバチにぶつかった」
学生時代。でも、その時「人を信じて一緒に作る。
それはどういうことなのかを初めて考えた」と語る。
商業映画デビューでは「プロデューサー側の思いに

自分の思いを乗せていく難しさ」も知った。それでも
「やっぱり撮っている時が一番楽しい」という。
“間”に特徴がある。なおかつ、どんな形であれ、
そこには彼女自身が思う人間が表れている。
「人間がちゃんと生きている作品を描きたいんです。
そして、観ていてふと揺れた感情が消費されずに
記憶や心に残る、そんな映画を作りたいと思います。」

いけだ ちひろ

中学生の時、BSで「トリコロール／青の愛」を観て映画監督を志す。磐田南高校
時代には映像文化部に在籍。文化祭で自身の脚本・撮影・監督・出演による作品
を発表。早稲田大学でも映画サークルにて制作を続けつつ、映画美学校に入学。
02年初等科五期生の修了制作作品『人コロシの穴』(16mm/36分)を監督し、
渋谷ユーロススペースにおいてレイトショー上映。03年カンヌ国際映画祭・シネフォ
ンダシオン部門にノミネートされる。大学卒業後、助監督として映画製作現場を経て、
05年東京芸術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域に一期生として入学。
07年同校卒業。08年『東南角部屋二階の女』で商業映画デビュー。今年、沖縄国際
映画祭の地域発信型プロジェクトとして、三ヶ日町を舞台にした作品「とんねるら
んでぶー」を制作・公開した。1980年北海道生まれ、静岡県袋井市(旧浅羽町)出身。



Contents

次代を創る顔⑤ 2
映画監督 池田 千尋

しずおかアーティスト・リレー③ 3
心経造形作家 丘野 巖麗

SPECIAL-1 特集 4

クラシックで 幸せになる秋冬。

coming soon I 10

グランシップ名人会・其の九「江戸の風景」

series わが羅針 第52回 11

吉田 蓑助

「来世、生まれ変わっても。」

SPECIAL-2 小特集 16

RETURN TO FOREVER

RETURNS!

coming soon II 20

2011年 しずおか連詩の会

coming soon III 21

運命に翻弄されながらも おんな講演会
強く生きた女性たち

essay 村松友視の文化漫遊⑦ 22
「縁ある名所旧跡」 画／風鈴丸

Love Granship その、愛すべき美空間 04 24
「座る、ヒト。」

information a-go-go 26~30

- 公演情報
- Just Finished!／「音楽の広場」
- プレゼント ●友の会のご案内 ●SPAC NEWS ●TOPICS
- SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room



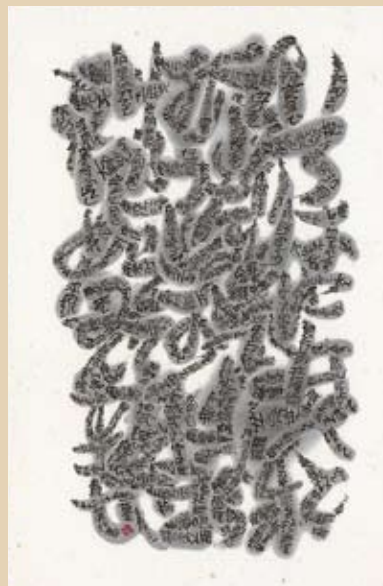
表紙アート●望月 通陽 作品タイトル：『風を知る人』
私の作品タイトルの中では、風にまつわるものが多いように思う。思い当たる所はある。それは風の持つ自由さ、とらわれない形、見えない力のもたらす働きなど、そんな所にあこがれるからである。しかしそれらは何と心の様と似ていることだろう。

(2010年制作)

しずおか 34
アーティスト・リレー

心経造形作家
丘野 巖麗

次回
造形作家
土屋 弘子さん



「いろは」による般若心経
和紙 サイズ／天地183mm×左右120mm

お願いがあります。あなたの名前を書いてみてください。次にその横に、目を閉じてもう一度名前を書いてください。目を開けてみてください。きつと思ってもみないような字が書けています。
回数を重ねるとそうなるのです。それは名前の書けるすべての人はみな同じです。
私の写経が「いろは」文字の中へびつたり入っているでしょう。一七七、五番目の作品です。これは、心経の長さを知っている私の右手が書いてくれたのです。

オカノ テンレイ ●昭和2年藤枝市生まれ。46歳より写経を始める。個展／東京・銀座 鳩居堂画廊ほか多数。受賞／静岡県芸術祭奨励賞、現代手工芸作家協会大賞、東京都知事賞ほか。昭和48年制作「平和の旗」はニューヨーク国連本部に永久展示。著書／詩集「えびかにの子」、「雲のこころ」など。

清水チャンピオンスイムスクールは



スポーツライフ アケアクラブに
11月4日(金) 新しく変わります。

(株) AQEA CLUB

〒424-0114 静岡市清水区庵原町 145-7

11/1 火 3 木・祝

OPEN POOL
オープンプール

無料体験教室 入会受付
無料内覧会

ご高齢のみなさまには、セラピューティックエクササイズがお勧めです。
加齢による筋力低下を抑え、運動の日常化を目指すことにより、
介護を要しない自立した暮らしを維持するためのエクササイズ。



電話：054-364-8380 ファックス：054-364-8108
ホームページ：http://www.aqea-club.com

クラシックで 幸せになる秋冬。

音楽は空気の詩だ。そう言ったひとがいた。

だからだろうか。

空が少しずつ高くなって、空気に透明感が増してくると
いい音楽を聴きたい、そんな思いが強くなる。

だからだろうか。

秋から冬にかけて、いいコンサートに出会えるのは。

音楽は魂が魂に話しかけるもの。

だから、翻訳を必要としないのだ。そう言ったひともいた。

そして、これは音楽の父J.S.バッハの言葉。

音楽は、精神の中から日常生活の塵埃を一掃する――。

清涼な空気に誘われてでもいい。

心の塵を払うためでもいい。

この季節、グランシップが贈るメッセージ、それは

「クラシックで幸せになろう。」

この季節、グランシップで
クラシックを楽しむなら！

音楽は、まず聴かないことには何もはじまらない。じゃあ、どう聴くか、だが、クラシックという山は基本的にどこから登ってもいい。そのくらいの懐の深さはある。通には通の、初心者には初心者なりの楽しみ方があってよし。好奇心の赴くまま、たどり着いた景色を楽しむのが正解だ。

プログラムで聴くクラシック

「オペラ」を楽しむなら

名曲を「バラエティ豊か」に楽しむなら

「オペラ」を楽しむなら

「オペラ」を楽しむなら



ウィーンの森
Bühne バーデン市劇場
オペラ「カルメン」
10/2(日)



サンクトペテルブルグ・
フィルハーモニー交響楽団
11/2(水)



カレファックス・リード・
クインテット
11/6(日)



ブラス・クインテット・
ウィーン=ベルリン
2012.2/10(金)

オーケストラと歌による「音楽劇」を楽しむなら

究極の楽器編成「オーケストラ」で楽しむなら

「オペラ」を楽しむなら

多彩な音色が

魅力の「木管楽器」を楽しむなら

豊かな響きが魅力の「銅管楽器」を楽しむなら

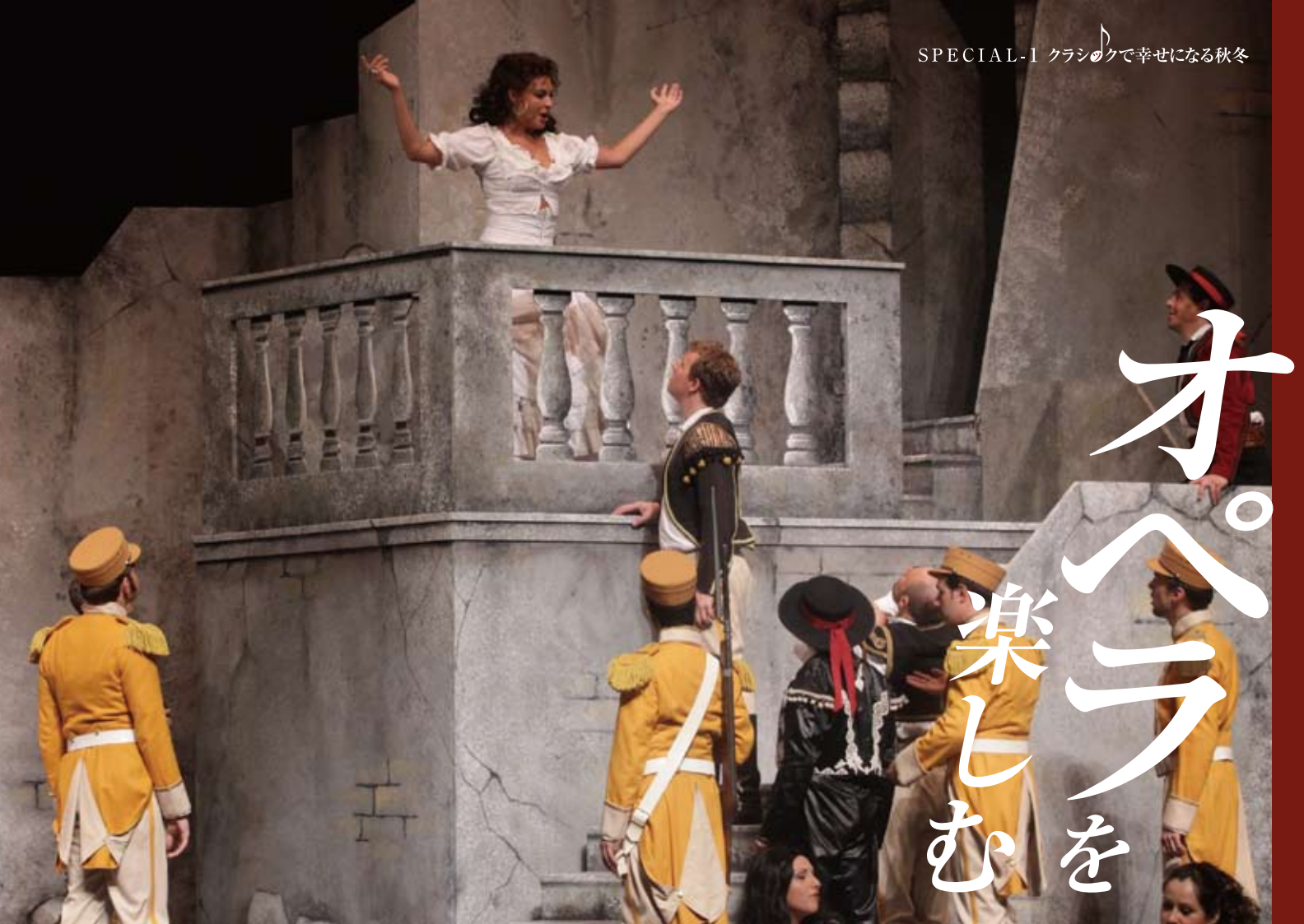
編成で聴くクラシック

楽器で聴くクラシック

このページで紹介の4公演がおトクに楽しめる！
秋冬クラシックセット券 100セット限定

残りわずか！

オペラ 「カルメン」 S席9,000円	+	サンクトペテルブルグ・ フィルハーモニー交響楽団 S席10,000円	+	カレファックス・ リード・クインテット 3,500円	+	ブラス・クインテット・ ウィーン=ベルリン S席3,500円	=	計26,000円のところ 4公演セットで 20,000円!
---------------------------	---	--	---	----------------------------------	---	--------------------------------------	---	-------------------------------------



オペラを楽しむ

ピットで音楽が鳴りだしたら、ドラマの始まり。心惹かれる旋律と一緒に、さあ、物語の世界へ。

クラシックには2つの源流があるとされ、一つが教会音楽、もう一つがオペラである…となれば、やっぱりコはおさえておきたい。

オペラではまず、客席の照明が落ちて、指揮者があらわれ、やがて舞台の正面手前一段低い位置にオーケストラピットから序曲(あるいは前奏曲)が聴こえてくる。

作品上の有名なアリアのメロディなどを繋げたものが多く、映画でいえば予告編のようなもの。なかでも『カルメン』では、お馴染みの闘牛士のメロディが登場して、期待感はマックスとなる。

そして、いよいよ幕が上がる。最近のオペラには必ず字幕がつくので、フランス語だろうと、イタリア語だろうとストーリーがわからない、ということはない。また、物語

と音楽の大きな区切りによって「第1幕」「第2幕」と分けられ、舞台装置も大きく変わることからよりわかりやすいのではな

いかと思う。幕が下がることによかったと思つたら大きな拍手を。観客としての礼儀もぜひお忘れなく。

さらにフィナーレ後のカーテンコールでは、幕を上げて舞台上に合唱団、ソリスト、指揮者が順番に登場し、全員でお辞儀をして閉幕となる。素晴らしいと感じたなら、ここで「ブラーヴォー!」と声をかけてもいい。ただし、これは意外に難しい。厳密にいうと、本家イタリアでは「ブラーヴォ」は男性にかける言葉で、女性には「ブラーヴァ」、複数の演奏家には「ブラーヴィ」というのだそう。

ビゼーの傑作『カルメン』とともにオペレッタの都から名門劇場がやってくる!

ビゼーの代表作といえば、『カルメン』だ。当時はヒロインが奔放な女性であること、ラストに殺人が描かれていることなどからなかなか世に出すことができず、しかも初演は不評。これに苦しんだビゼーは数ヶ月後に急死したとも伝えられている。

しかし、今や『カルメン』はフランス・オペラ史上最高の傑作と謳われ、世界でも人気の高いオペラの一つだ。本作の魅力は、恋愛を軸にした劇的な人間ドラマとエキゾチックな雰囲気、親しみやすい旋律にある。そして、これらを見事に披露してくれるのが、グランシップでは5年ぶり、6度目の登場となるヘーヴィン・の森 バーデン市劇場だ。バーデン市といえば、ベートーヴェンやシューベルト、モーツァルトなど多くの音楽家に愛された「オペレッタのメトロポール(首都)」。実力派のソリストを揃えられる



ウィーンの森 Bühne バーデン市劇場 オペラ「カルメン」 10/2(日)

ビゼー作曲 全4幕 フランス語上演/日本語字幕・解説書つき

中ホール・大地 15:30開演(15:00開場) ■チケット残りわずか 全席指定/S席 9,000円 A席 7,000円 B席 5,000円 学生 1,000円

■演出・監督:ルウチア・メシュビッツ ■指揮:クリスティアン・ポーラック ■演奏:モーツァルティアーデ管弦楽団 ■合唱:Bühneバーデン市劇場合唱団

オーケストラを 楽しむ

音の厚み、多彩な表現力に圧倒されたいなら、
断然オーケストラがおすすすめだ。

数十人から、ときには百人を超える演奏者で構成されるオーケストラ。その魅力は何といっても、あらゆる楽器、あらゆる音色が一堂に会し、互いを支え、引き出しあひながら、あるときは緻密なアンサンブルを聴かせ、あるときは圧倒的な迫力で表現の限界に挑むという、その多彩な表現にあるのではないだろうか。

オーケストラを聴く機会があったら、ぜひ、楽器の配置にも注目してみよう。それらは指揮者の意図やオーケストラの伝統によって決まるが、ステージの手前に弦楽器、その後ろに木管楽器、さらに後ろが金管楽器、最後列が打楽器というのが基本。また、弦楽器は左から第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ……となるのが一般的だ。

が、ヴァイオリンの第1と第2を最前列の両翼に配する古典的な配置（対向配置、両翼配置と呼ばれる）も珍しくない。また、変わり種としてよく紹介されるのがサンクトペテルブルグ・フィルで、対向配置に加えて、金管楽器を向かってステージ右に集め、コントラバスを第1の後方に配している。弦楽器の低音と金管の高音が包み込むような響き特徴だ。

いずれにしろ、楽器編成における究極ともいえるオーケストラ。アブローチの仕方はいろいろあるが、ビギナーこそトップレベルの演奏を聴くべきだ、という声をよく耳にする。その上で自分自身の感動指数を大切に、思うままに楽しんでほしいものだ。

ロシア最古の名門がおくる、超魅力のプログラム。
どこよりもおトクなプライスにも注目！

帝政ロシア時代は大指揮者ムラヴィンスキーのもと、レニングラード・フィルとして名を馳せたロシア最古の名門が、この（ヘ）ンクトペテルブルグ・フィルである。その後、ロシア交響楽では他の追随を許さない巨匠ユーリー・テミルカーノフが本フィルを引き継いだ。

ヨーロッパを中心に日本でも幾度となく公演を行ってきたサンクト・フィルだが、静岡では今回が初めての公演。とにかくプログラムがいい。パルマ王立歌劇場の音楽監督を兼任するテミルカーノフの手腕が期待される『セヴィリアの理髪師』序曲をはじめ、これまでも名演を繰り広げてきたストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』が入っているのもうれしいところ。さらに1999年のバガニー国際ヴァイオリンコンクールにおいて史上最年少で（日本人と

しても）初優勝して以来、世界の名オケ、名指揮者と共演を果たしてきた注目のヴァイオリニスト、庄司紗矢香を迎えての『メンコン』（メンデルスゾーンのコンチェルト）も聴ける！

S席の価格は今回の来日公演の最安値。学生にいたっては千円と、完売必至の公演なのでぜひ、お早めに。

庄司紗矢香
© Balazs Borocz Pilvax



ユーリー・テミルカーノフ指揮 サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団 11/2(水)

中ホール・大地 19:00開演(18:30開場) ■チケット残りわずか 全席指定/S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円 学生(A・B席) 1,000円

■ヴァイオリン：庄司紗矢香

■曲目：ロッシーニ／歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲、メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲、ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

木管楽器を 楽しむ

しなやかで繊細、やわらかな音色が魅力。
音楽に表情を映しだす、木管を聴こう。

字面だけで見ると、木でできた管楽器ということになるが、改良されて金属になったフルートや元々金属のサクソも木管楽器である。

実は木管楽器と金管楽器の違いは、音を出すしくみによって分類されているのだ。

おおざっぱにいえば、リードという細くて薄い板状のものを振動させて音を出す木管楽器に対して、金管楽器は唇を振動させて音を出す(リップリードという)。フルートやリコーダなどはリードを使わないが、息が楽器の吹き口に当たることで振動をつくる(エアリード)ので、木管に分類されるというわけだ。

オーケストラなどで使われる木管楽器には、音の高い順にフルート、オーボエ、クラリ

ネット、ファゴット(バスーン)。ほかにサクソ

やリコーダなどがあり、総じてその魅力は柔らかな音色にあるといわれる。音域によって変わる音色も木管ならではの特長で、勇壮果敢な世界を創りだすことには不向きな代わりに、その繊細さによって音楽に微妙な表情を与えることができるため、昔から旋律楽器として重用されてきた。

木管楽器だけのオーケストラというのはほとんど例を見ないが、室内楽では木管は人気が高く、サロンの雰囲気になったり。王道の五重奏もいいが、カレファックス・リード・クインテットのようにちよつと変化する五重奏が楽しめるのも、木管ならではのしなやかさ、ではないだろうか。

これも木管？ クラシック？

抜群のセンスはやっぱり生で体験しなくちゃ！

オーボエ、クラリネット、サクソ、バス・

クラリネット、ファゴットという編成のオランダの五重奏団。サクソを取り入れているところが特異だが、彼らが繰り出す音楽はそれ以上に斬新だ。よく「ポップスのメンタリティを備えたクラシック・アンサンブル」と紹介されているが、それらが全く言い足りていないと感じるほど、凄いくインテットなのだ。演奏におけるテクニクはもちろん、アレンジヤーとしても、コンポーザーとしてもトップクラス。古楽、ルネッサンス、バロックからジャズ、現代音楽まで、自分たちで編曲、再作曲し、自らの作品としてステージに上げる。一言で言えば、センスが抜群にいいのだと思う。

すでに国際的に評価され、



©Deen van Meer

カレファックス・リード・クインテット 11/6(日)

6階 交流ホール 14:00開演(13:30開場) ■チケット発売中 全席指定／一般 3,500円 学生 1,000円

■オーボエ:オリヴァー・ブックホルン ■クラリネット:イーヴァル・ベリックス ■サクソ:ラーフ・ヘッケマ

■バスクラリネット:イェルテ・アルタウス ■ファゴット:アルバン・ウェスリー

金管楽器を 楽しむ

木管が“音色”なら、金管はやっぱり“響き”。
流麗に、壮大に、遙か先まで鳴り響く。

木管楽器と金管楽器の違いについては、前ページでは紹介した通り。金管についてさらに加えるなら、管をのばすことで音程を下げる構造になっているところが木管と異なる点だ。やや乱暴ながら、漢字に当てると木管が「笛」で、金管は「喇叭」（ラッパ）ということだろう。

さて、オーケストラで金管といえは、ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバの4つ。金属という製錬技術を手にする以前は、動物の角がコレにあたり、角＝ホルンがそのままホルンになったとか。一方、トランペットは17世紀に至るまでは宮廷の権威の象徴のようなものだった。確かに映画などの王様登場シーンにはトランペットによるファンファーレが付きものだ。中低音を支

えるトロンボーンは、重厚感のある壮大なサウンドでオーケストラを支え、テューバは、金属の最低音を担う。テューバは巨大な楽器ゆえ、体躯に恵まれないとこの楽器は担えず、したがってオーケストラで大柄の人を見つけると、もしかしたらテューバ奏者では？などと思ってしまう。

ところで金管楽器の魅力を一言で語るなら、やはりニヤンスに富んだ美しい響きということになるだろうか。繊細な音から、軽やかな音、色彩豊かな音まで、さまざまな音を秘めている。オーケストラでのクライマックスにおけるブラスは圧巻だが、金管の五重奏もまた聴きごたえがある。流麗な“響き”を楽しむ、ということにおいても、なかなかおすすすめだ。

オーケストラ界のツートップから生まれた 金管のドリム・クインテット！

“世界最高峰”という名を互いに譲らないウィーン・フィルとベルリン・フィル。この2つがオーケストラ界の両横綱であることはもはや全世界共通の認識ともいえる。したがって、その両翼の現役トップ奏者が揃うというのは、本来ならばありえない話だ。ところがそれが実現するというのだから驚きだ。

ベルリン・フィルの花形トランペッター2名と、ウィーン・フィルのホルン、トロンボーン、テューバが加わった金管クインテット。そもそも両フィルでは楽員一人ひとりが第一級のソリストといわれるほどで、今回の5人もそれぞれがソリストとして世界各地で活躍している名手ばかり。技術はもちろん、創造性、探求力も高いといわれる5人が揃ったとき、一体どんな音楽、どんな響きを生み出すだろうか。まずはその現場に立ち会う



©R.Rindberger

チャンスを得られただけでも幸運といわねばならないだろう。
さらにドイツも、オーストリアも、多くの大音楽家、多くの名曲を生み出してきた国だけにプログラムも楽しみなところ。世界最高峰のステージが待ち遠しい！

ブラス・クインテット・ウィーン＝ベルリン 2012.2/10^金

中ホール・大地 19:00開演(18:30開場) ■チケット発売中 全席指定／S席 3,500円 A席 2,500円 学生 1,000円

■トランペット：ガボール・タルケヴィ、ギヨーム・ジェル(以上、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)

■ホルン：トーマス・イェブストル ■トロンボーン：ディートマール・キューブルベック ■テューバ：クリストフ・ギグラー(以上、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団)

落語を聴いてりや 世間つていうものが よくわかる。

「寄席に来りやあ究極の一期一会の芸に会える」とある落語家が言った。確かにあの小さな座布団の上が（中には勢いあまつてはみ出る落語家もいるが）長屋にもなり、宿屋にもなり、路地にもなる。登場人物はと言えば、若旦那に与太郎、八つあんと熊さんに長屋のおかみさんともう千差万別。扇子や手ぬぐいを用い、身振り手振りと言稽なやりとりで様々な物語が繰り広げられる落語こそ、究極の一人舞台だ。人情斬、粋な斬には、日本人の心の琴線に触れる懐かしさや感動、そして美意識すらある。

今回のグランシップ名人会・其の九のテーマは「江戸の風景」。はたしてどんな面白斬が飛び出すか。寄席をこよなく愛する人気落語家、柳家権太楼をはじめ、かつては江戸・東京の町のあちらこちらで聞かれた物売りの声を寄席芸にした漫談家、宮田章司、海外にも遠征をする人気紙切りの林家二楽がお目見え。限定300席の空間がたちまち江戸八百八町にタイムスリップ。当代きっての名人芸を存分に堪能あれ。



林家二楽(紙切り)

新たな紙切りを次々と展開する意欲的な紙切りの芸人。

「立体紙切り」発案や、クラシックとのコラボレーション、「おやこ紙切り教室」など、これまでの形式にとられない紙切りを次々と発信している。紙切りと落語のコラボレートによる「紙工落語の会」、OHPを使った「紙切り影絵物語・二楽劇場」等は各地で開催し、寄席だけでなく学校や海外での公演、テレビ等でも幅広く活躍。

1967年、埼玉県生まれ。1989年、実の父である、二代目林家正楽に入門。1991年に初高座。父は2代目林家正楽、兄は落語家の桂小南治。



宮田章司(江戸売り声)

日本でただ一人の「江戸売り声」

納豆屋や朝顔売り、金魚屋など、かつて江戸で聞かれたさまざまな物売りの声を、寄席芸として完成させた漫談家。江戸の生活の風景を現代に再現するその芸で、寄席やテレビだけでなく、海外でも幅広く活躍している。

1933年東京生まれ。1954年漫才師の宮田洋容(故人)の門下入門。翌55年同門の宮田陽司とコンビを組み、「陽司・章司」のコンビ名で漫才界にデビュー。その後文化放送のレギュラー番組を持つ傍ら、民放各局の演芸番組に数多く出演。1976年のコンビ解消後、「江戸売り声百景」和風漫談家として活動。



柳家権太楼(落語)

力強い高座で笑いの渦を作り出す、寄席で人気の実力派落語家。

平成の落語会を代表する爆笑派。年間約600近い高座に上がり、ダイナミックなパフォーマンス「権太楼落語」が人気の落語家。

1947年東京生まれ。1970年、明治学院大学在学中に柳家つばめに入門。前座名「はたる」。1974年より師匠他界のため五代目柳家小三門下となり、75年二ツ目に昇進、「さん光」となる。83年に真打昇進し「三代目柳家権太楼」を襲名。

2002年落語協会の理事に就任。

一般 三,〇〇〇円
学生 一,〇〇〇円

全席指定

チケット
発売中

午後六時三〇分開演(午後六時開場)
六階 交流ホール

一〇月二九日(土)

「名人が語る江戸百景」
——落語・江戸売り声・紙切り——
グランシップ名人会其の九

吉田義助

来世、生まれ変わっても。

「遊女、梅川を遣っていた時のことです。

太夫、三味線、人形の息がぴったり合い、

舞台と客席もひとつになったと感じたとき、

来世、生まれ変わって、

再びあの辛い修業時代を送ったとしても、

やはり人形遣いになりたいと思いました。」

遣って美しい、黄金の比率。

人形に命が吹き込まれる——人形遣いの至芸を言い表す際によく用いられる表現だが、その瞬間、立ち上ってくるのは“命”というより“情”だった。ときに熱く、ときに冷やかで深く、静かな情を目の当たりにして、驚き、戸惑い、そして鳥肌が立った。世界無形文化遺産指定の伝統芸能「文楽」の殿堂ともいえる国立文楽劇場の一室で、師匠が手にしたのは、〈心中宵庚申（しんじゅうようしん）のお千代。その手が人形に触れたかどうかの瞬く間に人形は生氣を取り戻し、〈お千代〉になった。物憂げに宙に視線を投げたり、取り巻く人々の心を透かし見るような表情を見せ

たり。撮影のライトを煩わしそうに避ける仕草は、どこから見ても“生身”の女性だ。

十数年前に病に倒れ、闘病とリハビリを経て今があるとは到底思えない。なるほど世界が遺産とした芸能、日本が国宝とした妙技だ。文楽の振興にも尽力され、この度の取材にも快く応じてくださった。その文面には、人形を遣う際と同じ、こまやかさ、真摯な心が薫った。

——お父様も人形遣いでいらしたとうかがっています。ご幼少の頃の文楽における環境はどのようなものだったのでしょうか。

「三、四歳の頃から父について、大阪の四ツ橋にあった文楽座に通ったものです。別段、何をするというわけでもないのですが、毎日飽きもせず、楽屋中をちょこまかと歩き回っていました。小さい頃から文楽一辺倒の環境でした。」

——当時の文楽と、現在の文楽を比べてみたとき、違いをお感じになることはありますか。

「今の劇場はどこも近代的な設備が整って、芝居の“匂い”というものがありませんね。昔の劇場は大道具のニカワの匂いがぷんと漂ったりして、その匂いを嗅ぐと“ああ、いよいよ初日だな”と胸が高鳴ったものです。昭和二十年の大阪の空襲で文楽座が焼け、人形の首も衣装も消失してしまいましたので、私の子ども時代のもとの今のものでは、首ひとつとつても違いますね。」

たのはいつ頃でしょうか。また、その決意を後押ししたできごとなどがありましたら、お聞かせください。

「私が六歳の頃、最初の師匠である吉田文五郎師匠から父に、“正式に人形遣いにしてはどうか”という打診があったようです。ずっと文楽の中で育ってきましたから“自分”は人形遣いになるもの”と承知して、自然に人形遣いの道に進みました。」

——修業時代はいかがでしたか。昔は冷房もなく、頭巾をかぶっての舞台はさぞや大変だったのではと思われませんか。

「まだ正式入門前、六歳ぐらいの頃の話ですが、父が遣う、あまり動きのない役の足を持つていた時のことです。じっとしていると眠くなり、そうなると思っている人形の足の位置が下がっていきます。普通なら叱られるところですが、そこは親です。人形の右手で、誰にも分からないように、足を支えていてくれました。また、〈恋女房染分手綱〉（こいにようぼうそめわけたづな）という演目で、師匠が重の井という、ある大名家の姫君の乳母役で、私が生き別れになっていた、倅の三吉という子どもの役を遣った時のこと。地方での公演でしたが、悲しい母子の別れに感激したお客様が、舞台におひねりを投げこむのです。たくさん飛んでくるおひねりに、“舞台に立つというのは、すごいことなんだな”と子ども心に思ったものです。もちろん舞台の陰では、辛いこともありました。師匠の人形の足を



「文楽の人形は、大の男が長い修業の末、三人もかかって遣います。不経済なことですが、三人もかかるからには、三人の役目を噛み締め、一人でやる以上に、より美しく、より効果的に、そして最終的にはより感動的であらねば、三人もかかる意味がありません。」

遣っているときなど、女方の足は人形の着物の袴（はき）を持ちますから、しもやけの手が人形の着物の中で温かくなると、猛烈に痒くて痒くて。師匠以外の方の足を遣っているときも、まずいことをすると舞台下駄で蹴られ、小道具の杖などで叩かれ……と、今では考えられない、そんな修業時代でした。」

——とくに好きな役、人形、作品などはおありますか。

「好きな役はたくさんあります。なかでも〈酒屋〉（艶容女舞衣／はですがたおんなまいぎぬ）のお園。サワリ“と呼ばれる見せ場は、女方の人形の美しさのすべてが凝縮されていて、遣っているとき心地よく感じます。」

——これまでで最も印象に残る舞台についてお聞かせください。

「ずっと以前、〈封印切〉（冥途の飛脚／めいどのひきやく）で遊女、梅川を遣っていた時のことです。太夫、三味線、そして人形の共演者の息がぴったり合い、そして舞台と客席もひとつになった空気が伝わってきたとき、口では表現できないほどの感動を覚えました。来世、生まれ変わって、もう一度あの辛い修業時代を送ったとしても、やはり人形遣いになりたい、人形遣いという道を選んでよかった！と感じた舞台でした。」

——文楽の人形は、不思議なバランスで、独特の魅力、オーラがあるように感じます。人形遣いであるご自身の目には、人形たちはどのように映っていらっしゃいますか。

「不思議なバランスとは全く感じたことはありません。その大きさや手足のバランス

【よしだみのすけ】

文楽人形遣い。文楽を代表する立女方。文楽人形遣い桐竹紋太郎を父に持ち、1940年3世吉田文五郎に入門。42年桐竹紋二郎と名乗る。翌年初舞台。48年2世桐竹紋十郎門下となる。61年3世吉田養助を襲名。以来、当代一の立女方人形遣いとして活躍。可憐さのある人形表現で知られる。70年芸術選奨新人賞受賞。94年重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。96年に紫綬褒章、97年には芸術院賞を受賞。98年脳出血のため楽屋で倒れるもリハビリの末、翌年夏の公演で奇跡的なカムバックを果たす。06年には5度目のフランス公演を行い、07年にフランス政府より芸術文化勲章コマンドゥールを受章。著書・共著に『頭巾かぶって五十年 文楽に生きて』『吉田養助写真集』のほか、山川静夫著による『文楽の女〜吉田養助の世界〜』『吉田養助と山川静夫 華舞台へ帰ってきた。脳卒中・闘病・リハビリ・復帰の記録』がある。33年大阪府生まれ。



「文楽の人形遣いの修業そのものが教えられるものではなく、言葉は悪いですが、勝手に盗むもので、しかも、自分の技量分だけしか盗めないものですから、段階を越えたことを教えられてもわかりません。（中略）盗んだものを基本にして、自分で自分なりの方法を編み出すしかありません。人形遣いの修業はそんなものです。」

は、人形遣いが手にして、三人で遣った時に美しく見える黄金の比率だと思います。」

舞台に立つことがすべて。

—— 半世紀以上も携わつてこれ、今、あらためて感じになる「文楽」という伝統芸能の面白さ、人形遣いとしての醍醐味とは何でしょうか。

「人間では表現し得ない、人形ならではの美しさが文楽にはあると思います。人間では生々すぎる場面でも、人形だとその役本来の姿が際立つて、物語の本質がよく見え、伝わるがあると思います。」

—— ご病気を経験され、今、強く思われることはどのようなことですか。また、現在は人間国宝という重責を担うお立場ですが、それについてはどのように思われますか。

「舞台に立つことは私のすべて。健康で、できるだけ長く舞台に立ち続けたいとさらに強く思います。ただ、国宝だから……と意識して舞台に立つことは一度もありません。芸に対する考え方や姿勢も、国宝になる前と後では全く変わっておりません。」

—— 静岡県出身であり、グランシップでは公演に先立ちレクチャーなどを務めてくださる山川静夫さんとは、長いおつきあいがかかっています。ご自身にとって山川さんはどのような存在でいらっしゃいますか。

「山川静夫さんとは同い年で30代からの付き合いです。同じような年代に、同じ

ような病気をし、リハビリに耐え、ともに表舞台に還ってくることができました。畏友であると同時に戦友でもあります。」

—— この十月は、グランシップで舞台を拝見できるとのことでもとても楽しみです。〈双蝶々曲輪日記／八幡里引窓の段〉（ふたつちようちようくるわにうきやわたのさとひきまどのだん）の見所などについてお話しただければ幸いです。

「〈引窓〉という、明かりとりの天窓がこの芝居では重要な役目を果たします。開ければ昼の光、閉ざせば夜の闇、登場人物の心の葛藤を、この引窓が巧みに表現しています。あまり種明かししすぎると、ご覧にならない楽しみが薄れるので解説はこのぐらいいいたします。私が遣うおはやという役は、もと遊女。今は結婚して人妻となつていますが、立ち居振る舞いに、華やかであつた頃の名残がついてしまうことがあります。それはどこか……と考えながらご覧いただくのも一興かと思えます。」

—— 静岡県内で定期的に文楽が鑑賞できるのは、残念ながらグランシップですが、今回の公演を楽しみしている県民にメッセージをお願いします。

「毎年十月に静岡へうかがえるのを楽しみにいたしております。ことに今年はこの静岡の地で、千穂楽を迎えます。今年も多くのお客様にお目にかかれることを祈念して、舞台を精一杯努めます。」



10/17^月 チケット発売中!

グランシップ伝統芸能シリーズ 人形浄瑠璃 文楽

昼の部 13:30開演(13:00開場)
「双蝶々曲輪日記 八幡里引窓の段」「新版歌祭文 野崎村の段」

夜の部 18:30開演(18:00開場)
「団子売」「摂州合邦辻 合邦住家の段」

グランシップ 中ホール・大地
全席指定／一般 3,500円 昼夜通し券 6,300円 学生 1,000円





©C.Taylor Crothers, Kimberly Wright, Miles Standish Pettengill III

RETURN TO FOREVER RETURNS!

フュージョンという、美しく華麗なサウンドに
新しい風を感じた70年代。
2011年秋、あのサウンドが、彼らが、帰ってくる!

リターン・トゥ・フォーエヴァー。
始まりは、チック・コリア名義の
一枚のアルバムだった。

ファンの間では

「カモメ」のジャケッットで知られるそれは
ジャズアルバムとしては

思いがけない大ヒットを記録した。

メロディアスで心地よいサウンド。

今でこそ「フュージョン」というと、

ある種BGM的なものとして

とらえられがちだが、当時、

彼らが生み出す音楽はもっと

実験的でポジティブなものだった。

アルバムタイトルが

そのままバンド名として定着し、

変化と進化をくり返しながら、

ジャズ史を駆け抜けた伝説のバンド。

そんな彼らが

実に30年ぶりの来日を果たすというー。



■Return to Forever / リターン・トゥ・フォーエヴァー 1972
カモメで有名なRTFのファーストアルバム。日本でも当時、ジャズでは破格のセールスを記録したという歴史的名盤。

RETURN TO FOREVER HISTORY

透明感、清涼感。そして、展開の巧さ。ラテン・フレイバーが薫る、第1期。

70年代のジャズは、一枚のアルバムを転機としてフュージョン・ブームへと突き進む。そのアルバムがバンド名にもなった『リターン・トゥ・フォーエヴァー』だ。アコースティックとエレクトリック、2つのサウンドの融合はあまりにも明るく開放的で、当時行き詰まりを感じ始めていたフリージャズの新風となる。ムーブメントの中心は、キース・ジャレットやハービー・ハンコックと並ぶキーボード奏者チック・コリア。そんな彼とスタンリー・クラークとの出会いがリターン・トゥ・フォーエヴァー（以下、RTF）を生んだといっても過言ではない。初期のRTFは、ブラジリアン色、ラテン色が強いのが特徴で、アラン・フエス協奏曲をイントロに用いた『スペイン』（『ライト・アズ・ア・フェザー』に収録）などは、最も人気のある曲のひとつだ。



▲Light as a Feather／ライト・アズ・ア・フェザー 1972
デビューアルバムと同年にロンドンで録音。ロックテイストが加えられる以前のユートピア・サウンドが堪能できる。収録曲『スペイン』は今やスタンダードの名曲。

ギターの超絶技巧とキャッチーな変拍子。一転、ロックヘシフトした、第2期。

ブラジル出身のメンバーが脱退し、代わりにギタリストが参加。チックやスタンリーとは旧知のドラマー、レニー・ホワイットも加入し

たことにより、3枚目のアルバム『第7銀河の讃歌』は一転、ロック色が強いものとなる。

続く『銀河の輝映』には当時弱冠19歳のギタリスト、アル・ディ・メオラが加わり、超絶技巧を駆使した高い音楽性で世界を魅了。フュージョン全盛の中、RTFはまさに黄金期を迎える。5作目の『ノー・ミステリー』では、グラミー賞のベスト・ジャズ・インストゥルメンタル・パフォーマンス部門を受賞。後期の傑作といわれる1976年発表の『浪漫の騎



▶Hymn of the Seventh Galaxy／第7銀河の讃歌 1973
ビル・コナーズとレニー・ホワイットが加入してかハードなロック・サウンドに変容。初めてビルボード200にチャート・イン。有名曲『キャプテン・セニョール・マウス』収録。



▶No Mystery／ノー・ミステリー 1975
テンションが高く、迫力満点のサウンドが楽しめる本作は、グラミー賞の最優秀インストゥルメンタル・ジャズ・パフォーマンス賞受賞。



◀Romantic Warrior／浪漫の騎士 1976
コロムビア・レコード移籍の第1弾。本作を最後にアル・ディ・メオラとレニー・ホワイットが脱退した。



◀Where Have I Known You Before／銀河の輝映 1974
このアルバムよりアル・ディ・メオラが加入。ビルボード誌のジャズ・チャートで第5位となった。

バンドはついに最終コーナーへ。そして、彼らは伝説となった――。

士』の大ヒットでその人気は頂点に達した。レニーとアルがバンドを離れ、その時点で、RTFの歴史は終わったとする向きもあるが、ヴォーカリストであり、チックの妻でもあるゲイル・モランらが参加した第3期は、正統的なエレクトリックバンドとしての人気はいまだ根強い。ホーン・セクションを擁した7作目『ミュージックマジック』は、大編成ならではのカラフルでファンキーなサウンドが印象的だ。

しかし、ライヴステージを収録した『ザ・コンプリート・コンサート』を最後にRTFは解散。振り返ればわずか6年弱の活動だが、彼らがジャズ史に残した足跡は大きい。

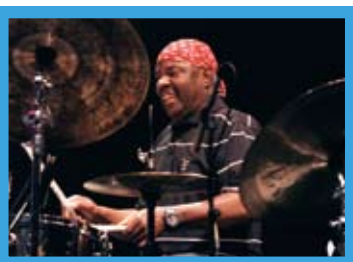


▶Musicmagic／ミュージックマジック 1977
大幅にメンバーを入れ替え、9人編成で録音。ギタリスト不在の編成は第2作以来。この編成による唯一のスタジオ・アルバムとなった。



◀Live (Return Live: The Complete Concert)／ザ・コンプリート・コンサート 1977(1999)
大編成を自在に操るチック圧巻のライヴ。メーターを振り切らんばかりの演奏が堪能できる。

フュージョン・シーンを操るリズムサポート。
RTF黄金期に彼のドラムあり!



Lenny White

レニー・ホワイト／ドラム

ジャズドラマー。作曲、編曲、プロデュースも手がける。60年代後半よりジャッキー・マクレーンと共演。マイルス・デイビスの名盤「ピッチェズ・ブリュー」の制作に参加。RTFには73～76年に在籍。フレディ・ハバードやジョー・ヘンダーソン、スタン・ゲッツなど、多くのミュージシャンと共演している。1949年生まれ。

08年、上原ひろみとのピアノ・デュオで
武道館を湧かせたチックがRTFを率いて再来!



Chick Corea

チック・コリア／キーボード

アメリカを代表するジャズ・ピアニスト、キーボード奏者、作曲家。ジャズをベースにボサノヴァ、ロック、クラシックなどの要素を織り交ぜた作品、プレイで知られる。イタリア系、スペイン系の血筋の影響か、ラテン色の濃いピアノ・タッチが特徴。68年にはマイルス・デイビスと活動を共にした。70年以降はRTFをはじめ、サークル、チック・コリア・エレクトリック・バンド、オリジン、チック・コリア・アコースティック・バンドなど、自身のバンドを次々と結成。ピアノによるソロ、デュオ、トリオ作品も多い。1941年生まれ。

今年度、グラミー賞受賞。
スタンリー・熱急上昇中のステージに注目!



Stanley Clarke

スタンリー・クラーク／ベース

ファンク、フュージョンを得意とする名ベーシストにして、RTFの代表的存在のひとり。ジェフ・ベックとの共演などからロックファンにも人気があった。昨年から今年にかけて、静岡県出身のピアニスト上原ひろみと数々のライブを共にし、「ジャズ・イン・ザ・ガーデン」に続き、彼女を“ベリー・スペシャル・ゲスト”に迎えたアルバム「スタンリー・クラーク・バンド フィーチャリング・上原ひろみ」(レニー・ホワイトも参加)が今年度のグラミー賞「Best Contemporary Jazz Album」受賞に輝いたことは記憶に新しい。1951年生まれ。



こちらにも超絶のジャズ・ロック・ヴァイオリニスト。
火花散るその音を堪能せよ!



Jean-Luc Ponty

ジャン・リュック・ポンティ／ヴァイオリン

フランス出身の超絶ヴァイオリニスト。クラシックの音楽一家に育つが、ジャズに転向。マハヴィンヌ・オーケストラから独立してソロ活動をスタートし、フランク・ザッパでも活躍。ジャズやロックを超越した数々の名作で絶大な人気を博し、フュージョン界においてエレクトリック・ヴァイオリンの第一人者となる。現在はアメリカを拠点に活躍。1942年生まれ。

チックが世に出し、ギタリストのリスベクトを集める、
超・超・超絶技巧の鬼才!



Frank Gambale

フランク・ギャンバレ／ギター

オーストラリア出身の超絶ギタリスト。86年にチック・コリア・エレクトリック・バンドに加入したことで一躍注目される。超難度の新スピード・ピッキング奏法“スウィープ・ピッキング”を開発して世界に登場。そのテクニックは他の追随を許さず、世界中のギタリストからリスベクトされている。今回来日のポンティとの共演も広く知られるところ。1958年生まれ。

静岡木遣保存会・東嘉会

息を合わせ、粋を伝える。
静岡の神事、慶事に木遣あり。

新門辰五郎といえば、ドラマ「J・IN」にも登場した江戸の侠客にして火消しの頭。その配下で木遣師として活躍した中井東太郎と、昭和の木遣名人で知られる渡辺嘉吉。この二人の師から一文字ずつ戴いた「東嘉会」は、発足から半世紀、今や静岡の神事、慶事に欠かせない存在だ。

木遣とは木遣歌のこと。読んで字の如し。神社造営の神木など、木材を大勢で運ぶ際、

皆で息を合わせるための労働歌で、もともとは即興の詩をつけて歌われたものだという。東嘉会が受け継ぐ木遣には大別して3種あり、一つは上棟で大工たちが歌う木遣。もう一つが静岡浅間神社の祭りで歌われる廿日会祭木遣。そして、徳川慶喜の身辺警護で同行した新門辰五郎が伝えた浅草木遣である。これら正統木遣を次代に伝えるため、毎月の稽古は欠かさない。



- 団体名 / 静岡木遣保存会・東嘉会
- ジャンル / 民俗芸能
- 会員数 / 46名
- 設立 / 1957年
- 代表者 / 望月 利郎
- 活動拠点 / 静岡市
- 活動エリア / 静岡県中部地区
- 実績 / 浅間神社廿日会祭・静岡まつり・みこし祭り・久能山東照宮などで木遣奉納。平成17年度第19回地域文化活動賞受賞。平成18年度ふじのくに伝統文化フェスティバル参加。

チックも、スタンリーも、レニーも

静岡県が誇るジャズ・ピアニスト上原ひろみと共演という縁。

静岡で彼らに会えるという幸運に

狂喜しないファンはいないだろう。

77年の解散後、82年に再結成、83年には来日公演も行われたが、今回のツアーは、それ以来、実に約30年ぶりの来日だ。

黄金期とされる第2期のメンバーが中心だが、単なる懐かしの同窓会、などと思ってもらっては困る。チック、スタンリー、レニーのオリジナルメンバー3人に、フランク・ギャンバレ(ギター)、ジャン・リュック・ポンティ(ヴァイオリン)を加えた5人編成。これだけのビッグネームが、思い出を温めるためだけに顔を揃えるはずがない。

しかも静岡は日本ツアーの最終地。グランシップで実現するこのビッグチャンスを見逃せるわけがないのだ。



©Martin Philbey

RETURN TO
FOREVER 

“Returns to Japan Tour 2011”

リターン・トゥ・フォーエヴァー“リターンズ・トゥ・ジャパン・ツアー2011”

10/10(月・祝) 17:00開演(16:15開場)

大ホール・海 チケット発売中

全席指定 S席 9,000円 A席 7,500円 B席 6,000円

大高生(A席・B席) 3,000円 小中生(A席・B席) 1,000円



詩人たちの言葉には、創造力の羽がついている。
渡り鳥のように言葉は美しく列をなし、
至福の詩へと繋がっていく。



渡り鳥は一羽では目的地に行けない。十数羽がひとつになり、情報共有と連携が必要だという。先頭の鳥は他の鳥を導きながら風の抵抗から皆を守り、しばらくたつとその座を交代する。その繰り返し。だから何百キロも飛べるのだそうだ。連詩もどことなく似ている。複数の詩人が集い、前の詩人の詩を受けて、そこから言葉や表現を引用したり、別の言葉に置き換えたりしながら詩のリレーを行う、完成というゴールまで。「連詩とは、一種宴の席ともいえる一つのテーブルを囲んで、それぞれの表現の異質さや個性の違いを楽しみ認め合い、創造的な刺戟を共有しようではないかという試みだったのである」と本会の提唱者である詩人の大岡信氏は言う。「しずおか連詩の会」も今回で12回目。多くの詩人たちが楽しみ、創造力の羽を羽ばたかせてきた。本年も大岡信氏を監修に据え、6回目の登場となる野村喜和夫氏、比較文学者でもある管啓次郎氏、アート番組の企画にも携わる城戸朱理氏、著書多数の川口晴美氏、朗読演奏活動も行う三角みづ紀氏とユニークな顔ぶれが揃った。発表会では創作者による朗読のほか解説も行われる。どんな創作の旅になるか、お楽しみに。

2011年 しずおか連詩の会

2011年11月20日(日)
午後2時開演(午後1時30分開場) 11階会議ホール・風 入場無料(事前申込制)



三角みづ紀(みすみづき)
詩人。1981年生まれ。詩集に「オウバアキル」(中原中也賞 2004年)「カナシヤル」(歴程新鋭賞 2006年)など。朗読演奏活動やCD制作なども盛んに行う。



川口晴美(かわぐちはるみ)
詩人。1962年生まれ。詩集に「半島の地図」(山本健吉文学賞 2010年)など。著作に「ことばを深呼吸」など。早稲田大学をはじめ、各所で詩を講じている。



城戸朱理(きどしゆり)
詩人。1959年生まれ。詩集に「不來方抄」(歴程新鋭賞 1994年)「幻の母」(芸術選奨新人賞 2011年)、評論に「討議戦後詩」「潜在性の海へ」など。CSTVのアート番組の企画にも携わる。



管啓次郎(すがけいじろう)
詩人・比較文学者。1958年生まれ。著作に「斜線の旅」(読売文学賞 2009年)「野生哲学」など。第1詩集「Agend' ars」(2010年)を刊行。明治大学教授。



野村喜和夫(のむらきわお)
詩人。1951年生まれ。著作に「特性のない陽のもとに」(1993年歴程新鋭賞受賞)、「風の配分」(2000年高見順賞受賞)、「ニューインスピレーション」(現代詩花椿賞受賞 2003年)。



90

運命に
翻弄されながらも
強く生きた
女性たち



おんな講演会

～能楽に見る本当の女性像～

12月5日(月) 11階 会議ホール・風

19:00開演(18:30開場)

[第1部]

小和田哲男氏による講演

[第2部]

小和田氏と宝生和英(宝生流二十世宗家)、
三宅右矩(和泉流狂言方)による講演

◎参加費:500円(事前申込制)



世の中、どこもかしこもなでしこブームである。サッカーはもちろん、女性のパワーが日本を救わんとばかりに毎日テレビを賑わしている。さて、ご先祖様?にあたる遙か昔の女性たちはいかに。当グランシップでは、1月12日の「グランシップ静岡能」に先駆けて、来る12月5日、平安期から江戸期の逞しき“女性”をテーマに講演会を実施する。

第一部は講師に「NHK大河ドラマ「江」姫たちの戦国」の時代考証も行っている静岡大学名誉教授・小和田哲男氏を招いての講演。戦乱に翻弄されながらも、人々との絆を育み、天下太平の世を願い、やがて江戸幕府第2代將軍・徳川秀忠の正室となり大奥の礎を築いた「江」の人生に迫る。江の母・市は江に言った。「女子(おなこ)には女子(おなこ)の戦がある。それは生きること」と。そんな母も力強い女性ではあったが、戦国時代の男たちの争いの中で、賢明に生きた江はどんな女性だったのだろうか。

第二部は今注目の宝生流二十世宗家・宝生和英、和泉流狂言方・三宅右矩の両氏を迎え、能楽作品「巴(ともえ)」の主人公・巴御前と源義経の吉野落ちの際、法楽の舞で追つ手から一行を逃した静御前の二人の女性にスポットを当て小和田氏との鼎談。二十代の二人がどんなイメージで女性を演じているのか。中世の力強い女性たちの魅力が解き明かされる。ぜひお聴き逃しなく。

むかしの大人は、名所旧跡に対して、きわめて素直に馴染みながら、礼をつくしていた…という思いを、わが身のありさまをふりかえって、つくづくかみしめさせられている。

私は、小学生から高校三年生まで、祖母とともに清水に住んでいたが、その下清水の八幡社裏の家を、祖父や叔父たちが、それぞれのペースでおとずれることをくり返していた。祖母はその家で父を失ない母と別れた孫である私の養育の役をつとめ、祖父は鎌倉において別な女性を世間に向かつての“妻”としてあつかい、そこから清水の家への仕送りをつづけていて、時どき清水へやって来て、祖母と何やら仔細ありげな話をしていた。

叔父たちは、そんな母親の暮らしぶりを気にかけて様子を見ていたのだが、清水へやって来た祖父や叔父たちが、かならず足を向ける場所がそれぞれ決まっていた。祖父は梅蔭寺と鉄舟寺と龍華寺、叔父たちは鉄舟寺と龍華寺と三保の松原へ行ったが、そのときの案内役を私がやらされた。案内役…と言っても、大人たちはみな目的地への道筋を熟知しているのだから、本当は案内人は必要でなく、私の役はあまり意味のな

いものだった。

祖父と一緒にときは、龍華寺の近くにあった祖父の知人の大きな家敷で、冬はぜんざい、夏は蜜豆を食べさせてもらうのが私の目的。叔父たちとのときは、三保の松原の屋台店で食べる味噌おでんが楽しみだった。しただがつて私の案内人役は、大人たちがあてがつてくれた名目だけのものだったのだ。

それにしても、私が祖父や叔父たちと同じ場所へ行ったケースは、かなりの回数であったはずだ。なぜ同じ場所へ何度も…という疑問が生じたのは、私が清水をはなれ、祖父も亡くなって、それからまたかなりの時をへてのちのことだった。ぜんざい、蜜豆、味噌おでんを満喫していた少年時代には、もちろんそんなことを考えることもなかった。

ところが、大人になってたまに清水をおとずれるようになってみて、自分が祖父や叔父たちのように、清水に縁のある名所や旧跡を律儀におとずれていないことにふと気づいたのだ。祖父や叔父たちは、仕事上の必要性や目的があつてそこへ行くのではなく、ともかくごく自然に同じ場所の折々の風情にひたつてい

縁ある名所旧跡への挨拶

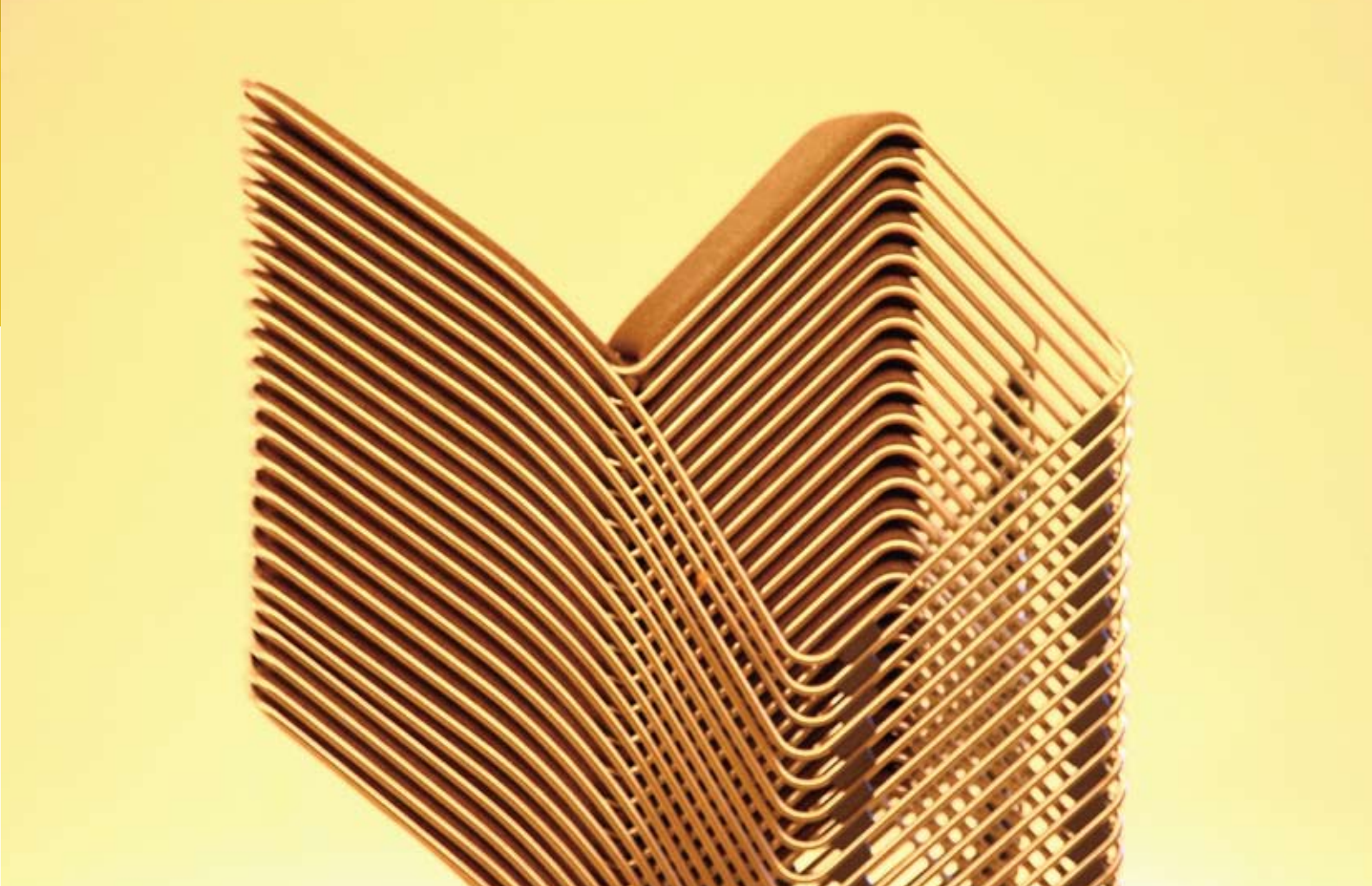
るようだった。縁のある土地の名所旧跡へとりあえず足を向ける…それが意識することもない当たり前の挨拶や礼儀みたいになっていて、観光客の対し方とはまったく別のセンス、^{からだ}軀にわたったかしさや親しみが風にさそわれたような感じだった。

あの自然体の物腰を、かなりながいこと忘れていたことに気づき、それこそが名所旧跡をおとずれる観光客とはまるでちがう、地元で縁をもつ者の特権的な楽しみであることに思いついた。これからせいぜい、目的をもたず、ただ縁ある名所旧跡の風にあふれる機会を多くしてみようと思う。蜜豆とおでんももちろんその味わいの中に組み入れなければなるまい。



【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水（現静岡市）で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。『時代屋の女房』で直木賞、『鎌倉のおばさん』で泉鏡花賞受賞。





Love Granship 04

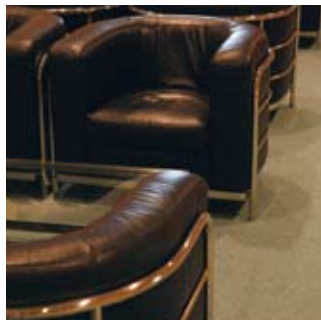
その、愛すべき美空間



3階ロビー



中ホール2階南ホワイエ
グランシップマガジン—24



11階ロビー



中ホール・大地



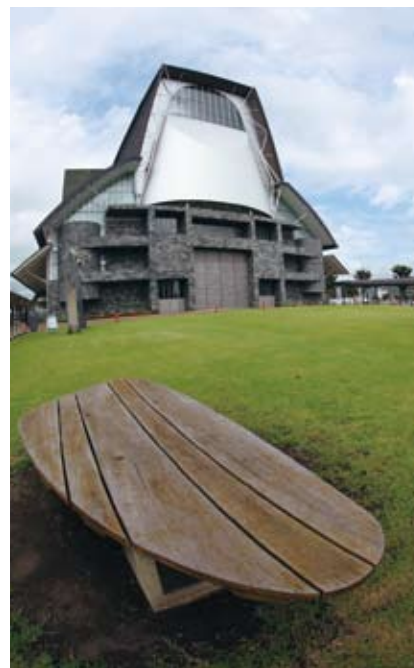
大ホール・海

座る、ヒト。 歩く、ホモ・サピエンス

江戸川乱歩の小説に『人間椅子』という短編がある。乱歩らしい奇抜な着想とエロティックな世界観。その〈椅子〉は「ただならぬ有り様を見せつつも、人体への適合性が求められる〈椅子〉という家具(あるいは道具)の本質を言い得ているようでもあった。

そもそも人類は、直立二足歩行することによって類人猿と区別されたが、立つて歩くことが〈座る〉という動作を生んだという見方もできる。その証拠にグランシップのギャラリーで作品を鑑賞したり、イベントに興じているとやがて「座りたい」という思いにかられる。この「座りたい」は「休みたい」と同意で、眼の先にとらえた椅子はオアシスのようなものだ。

ちなみに〈坐〉は、人が地面にお尻をつける様子を表し、これに〈广〉がついて家の中で人が座る場所を指す〈座〉が生まれたのだそう。グランシップ広場の芝生の上に坐ったり、館内の椅子に座ったり。いずれにしろ、文化や芸術に親しむのも、歩く、座るも、実に人間らしい行為というわけだ。



グランシップ広場

ご利用についてのご案内

〔申込受付〕

9:00～20:00 ※開館時間/9:00～22:00

〔申込方法〕

電話または当財団窓口にて直接申し込み下さい。なお、予約受付を開始する月のお申し込みについては事前に「抽選申し込み」を受け付けています。くわしくは右記あてにお問い合わせを。

お申し込み・お問い合わせ

TEL054(203)5713 FAX054(203)6710

財団法人 静岡県文化財団 利用サービス課

〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4 メールアドレス yoyaku@granship.or.jp

施設の空き状況は、ホームページでも検索OK! <http://www.granship.or.jp/>



concert
コンサート音楽イベント



stage
演劇・舞台



exhibition
展示会・展覧会



event
イベント



talk
講演会



Workshop
ワークショップ

公演情報

2011/9-2012/2

※8月現在の情報です。出演者、天候等の都合により、公演の内容が変更されることがあります。



チケット発売中

10/29[㊥]

G

グランシップ名人会其の九 「一落語・江戸売り声・紙切り」 名人が語る江戸百景



柳家権太楼

宮田章司

林家二楽

限定300席の空間で繰り広げられる名人芸。日本が活気に満ちていた江戸時代にタイムスリップ。粋な名人の話芸をとくご覧あれ。

【出演】柳家権太楼(落語)、宮田章司(江戸売り声)
林家二楽(紙切り)

■18:30～ ■6階 交流ホール
■全席指定 一般 3,000円 学生 1,000円

→P10参照



チケット残りわずか

11/2[㊥]

G

ユーリー・テミルカーノフ指揮 サンクトペテルブルグ・ フィルハーモニー交響楽団



数々の名演を残してきたロシア最古のオーケストラを世界屈指の指揮者テミルカーノフが率いての来日公演。巨匠のラプコールで日本を代表するヴァイオリニスト庄司紗矢香との共演が実現。世界最高峰の演奏をお聴き逃しなく!

■19:00～ ■中ホール・大地
■全席指定 S席 10,000円 A席 8,000円
B席 6,000円 学生(A・B席) 1,000円

→P4～参照

事前講座

小林和男(元NHKモスクワ支局長)が語る
「文化の力で再生するロシア」

■9/23(金・祝) 14:00～
■6階 交流ホール
■参加料 500円(要事前申込・当日支払)

※申込方法は左ページ参照



チケット発売中

11/6[㊥]

G

カレファックス・リード・ クインテット

オランダの木管五重奏。サクソフやバス・クラリネットなど一風変わった編成が今まで聴いたことのない多種多様な響きを生み出す。



©Deen van Meer

■14:00～ ■6階 交流ホール
■全席指定 一般 3,500円 学生 1,000円

→P4～参照



チケット発売中

10/10[㊥]

G

Pコード138-981

リターン・トゥ・フォーエヴァー “リターンズ・トゥ・ジャパン・ ツアー 2011”

チック・コリア、スタンリー・クラーク、そしてレニー・ホワイットの最強トリオに、エレクトリック・ヴァイオリンの第一人者ジャン・リュック・ボンティ、ギタリストフランク・キャンパレらが集結!ジャズ史に燦然と輝く伝説のフュージョンバンドが30年ぶりに奇跡の来日!

■17:00～ ■大ホール・海

■全席指定

S席 9,000円 A席 7,500円 B席 6,000円

大学・高校生(A・B席) 3,000円

中学生以下(A・B席) 1,000円 →P16～参照



10/15[㊥]・16[㊥]

グランシップ懐かしの映画会



「伊豆の踊子」

「野菊の墓」



「時をかける少女」

「僕らの七日間戦争」

山口百恵、松田聖子、原田知世、宮沢りえの主演映画を上映。時代を彩ったアイドルたちが、スクリーンに蘇る。

■中ホール・大地

■15(土) 13:00～「伊豆の踊子」

14:45～「野菊の墓」

16(日) 11:00～「時をかける少女」

13:45～「僕らの七日間戦争」

■全席自由(1日料金) 一般 500円

小・中学生 100円 (要事前申込・当日支払)

※申込方法は左ページ参照



チケット発売中

10/17[㊥]

G

グランシップ伝統芸能シリーズ 「人形浄瑠璃 文楽」

人気のグランシップ伝統芸能シリーズ。人形浄瑠璃・文楽の見どころはなんといっても太夫、三味線、人形遣いの三業。三位一体でなされる洗練の美しさは、一度観たら忘れられない。文楽は初めてという方には事前のレクチャーも充実。

■昼の部 13:30～

夜の部 18:30～

■中ホール・大地

■全席指定 一般 3,500円

昼夜通し券 6,300円 学生 1,000円



お染・久松～野崎村の段～



入場無料

9/17[㊥]・10/2[㊥]

Wonderful 境界線のないアート展／ NHKハート展

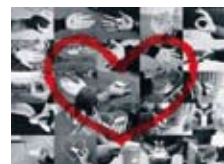
人と人がつながる瞬間。心からあふれる表現に、グランシップで出会う。

■10:00～17:00

(入場は16:30まで)

■6階 展示ギャラリー

■入場無料



吉瀬美智子(女優)

ドキュメンタリー映画上映会

「ベルリン・フィルと子どもたち」
「遠足 ～Der Ausflug～」

(1作品 500円)

※詳細はホームページで



チケット残りわずか

10/2[㊥]

G

ウィーンの森 Bühne バーデン市劇場 オペラ「カルメン」

300年近くの歴史がある「バーデン市劇場」がグランシップへ。ハラハラドキドキのストーリー展開。衝撃のクライマックスまで目が放せない。仏語・全4幕、字幕・解説書付。

■15:30～

■中ホール・大地

■全席指定 S席 9,000円 A席 7,000円

B席 5,000円 学生 1,000円

→P4～参照

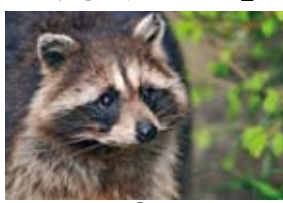


事前申込制

10/8[㊥]

「しずおか文化新書」講演会 「アライグマが もうここまで来ている!？」

「恐るべし!外来生物～しずおかに侵略する生物の実態～」発行に合わせ、本来の移動能力を超えて移入される外来生物がテーマ。



©Tambako the Jaguar

1980年代にテレビアニメによって人気者になり、多くがペットとして輸入されたアライグマ。実は大人になると気が荒い「荒いグマ」に変身。飼育に困って捨てられたり、逃げ出したりしたアライグマが県内に姿を見せるようになっていく。今回はその生態を中心に、県内に広がる外来哺乳類の実態とその問題を解説する。

■14:00～ ■11階 会議ホール・風

■講師 三宅 隆(元日本動物園獣医)

■参加料 500円(要事前申込・当日支払)

※申込方法は左ページ参照



ボランティアスタッフによる託児をご希望の方は、公演1週間前までに(財)静岡県文化財団企画制作課までご連絡ください。☎054-203-5714

※お預かりできるのは、2歳以上の未就学のお子様に限ります。※イベントによっては、託児サービスが利用できない場合もございます。



事前申込制

2012.1/6[㊤]

静岡ガスPresents グランシップ&静響 ニューイヤーコンサート

毎年恒例の新春公演。名曲の美しい音色に彩られ、新年にふさわしい極上の時間をあなたに。

■昼の部 14:00～ 夜の部 19:00～

■中ホール・大地

■全席指定 1,000円 申込締切:11/30(水)必着
※往復はがきによる事前申込制。住所、電話番号、年齢、昼の部か夜の部かを明記。応募者多数の場合は抽選。2名まで(小学生以上対象)



10/23日チケット発売

2012.1/21[㊤]

グランシップ伝統芸能シリーズ 「グランシップ静岡能」



新春から華やかな「グランシップ静岡能」。「女性」をテーマに能「吉野静」「巴」を上演し、女性の力強さに迫る。宝生流二十世宗家も出演!

■14:30～ ■中ホール・大地

■全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円
学生 1,000円

「おんな」講演会

～能楽に見る本当の女性像～ **→P21参照**

■講師 小和田哲男(静岡大学名誉教授)
宝生和英(宝生流二十世宗家)
三宅右矩(和泉流狂言方)

■12/5(月) 19:00～21:00

■11階 会議ホール・風

■入場料 500円(要事前申込・当日支払)

※10/1より受付開始。申込方法は下欄参照



10/23日チケット発売

2012.2/10[㊤]

ブラス・クインテット・ ウィーン=ベルリン



©R.Rindberger

ウィーン・フィルとベルリン・フィルの金管奏者が夢の競演! 世界最高峰の贅沢な音色が、夢の時間をお届けする。

■19:00～ ■中ホール・大地

■全席指定 S席 3,500円 A席 2,500円
学生 1,000円 **→P4～参照**



事前申込制

11/20[㊤]

2011年しずおか連詩の会

5人の詩人が5行と3行の詩を連ねた、出来立ての連詩を発表し朗読、解説。詩人の心象に触れる貴重な時間を、お聴き逃しなく。

【参加者】野村喜和夫、管啓次郎、城戸朱里

川口晴美、三角みづ紀

■14:00開演(13:30開場)

■11階 会議ホール・風 ■入場無料(要事前申込)

※申込方法は下欄参照 申込締切:11/4(金)

申込多数の場合は抽選

→P20参照



9/11(日)チケット発売

12/6[㊤]

PREMIUM Xmas Jazz Live SIMPLE JAZZ Bossa Nova, Kansas City Jazz



マヤ・ハッチ



杉原 淳・五十嵐明要・原田忠幸

日本を代表する3人のサクソプレイヤーによる、味わい深い大人のジャズナイト。若き歌姫マヤ・ハッチとの共演は必聴!

■19:00～ ■6階 交流ホール

■全席指定 一般 4,500円 学生 1,000円



10/15(土)チケット発売

12/11[㊤]

提携公演/TOKAIグループPRESENTS 静岡交響楽団 第47回定期演奏会 歓喜の歌 第九コンサート

一年の締めくくりは、ベートヴェンの「第九」。一般公募の参加者で作る合唱団が、荘厳な一夜をお届けする。



指揮:宮本文昭 ©林 喜代種

■14:30～ ■中ホール・大地

■全席指定 一般 3,500円 学生 1,000円

■お問い合わせ:NPO法人 静岡交響楽団

TEL 054-203-6578



チケット発売中

11/6[㊤]

提携公演/KENKEN DANCE FACTORY The Nutcracker くるみ割り人形



バレエ「くるみ割り人形」を、別角度から見た独自の解釈で物語を展開。ジャズダンスをベースとした創作スタイルの異空間舞台をお楽しみに。

■15:00～ ■大ホール・海 ■1,000円

■お問い合わせ:KENKEN DANCE FACTORY

TEL 0547-35-5770



入場無料

11/19[㊤]・12/25[㊤]

グランシップ 冬のおくりもの

静岡市出身の布小物作家・大野絵里による今年のツリーのテーマは“Wonder Forest”。森をイメージしたツリーの点灯式に華を添えるミニコンサート、園児たちの絵画展のほか、県立図書館コーナーでのおはなしかいも。カフェやレストランにはクリスマスの特別メニューも登場。

クリスマスツリー点灯式

■11/19(土) 17:00～ ■1階エントランス

～ミニサンタからのプレゼント～

園児たちの絵画展

■11/19(土)～12/25(日) ■3階ロビー

■入場無料



昨年の様子

「しずおか文化新書 講演会」「懐かしの映画会」「小林和男が語る 文化の力で再生するロシア」 「しずおか連詩の会」「おんな講演会」の申込方法

電話・FAX・E-mailにて、下記宛に申込を。FAX・E-mailの場合は、参加希望のイベント名・住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のこと。※定員に達し次第、締切。 財団法人静岡県文化財団(グランシップチケットセンター)
TEL.054-289-9000 FAX.054-203-5716 E-mail.info@granship.or.jp

クラシックを味わい尽くす、夢のお得プランが登場

クラシックセット券 限定100セット発売中 G (WEB購入は不可) 残りわずか!

●オペラ 「カルメン」 10月2日(日) 15:30～ 中ホール・大地 S席 9,000円	●サンクトペテルブルグ・ フィルハーモニー 交響楽団 11月2日(水) 19:00～ 中ホール・大地 S席 10,000円	●カレファックス・ リード・クインテット 11月6日(日) 14:00～ 6階 交流ホール 3,500円	●ブラス・クインテット ウィーン=ベルリン 2012年2月10日(金) 19:00～ 中ホール・大地 S席 3,500円	6,000円もお得! 全部で26,000円のところ セット券20,000円 (約25%割引)
--	--	---	---	--

JUST FINISHED!



グランシップ音楽の広場の終演後 7. Aug. 2011

指揮者の広上淳一氏と音楽監督の渡壁輝氏を囲んでの交流会にて

読者 Presents

チケットプレゼント!



12月6日(火)開催の「グランシップ・プレミアム・クリスマス・ジャズライブ SIMPLE JAZZ」のチケットを2組4名にプレゼント。ハガキに住所、氏名、電話番号およびプレゼント名を明記の上、下記あてに郵送を。(平成23年10月末日消印有効)。

なお、当選者は賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。
〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップG係
TEL054-203-5714 ※30ページのハガキをご利用下さい。

MEMBERS 「グランシップ友の会」会員募集

グランシップが開催する公演・イベントをよりおトクに楽しんでいただくためのメンバーズクラブ「グランシップ友の会」。ぜひ、あなたもご入会を。

■会員タイプ・年会費 (個人会員の初年度年会費は)

- ◆個人会員 年会費 2,000円
- ◆法人特別会員 年会費 200,000円
- ◆法人一般会員 年会費 100,000円

■特典

- ◆チケット割引10%割引 ◆チケット先行予約
- ◆公演情報誌送付 ◆提携店割引
- ◆法人会員特典 (情報誌上及びグランシップ館内に社名掲載)

(チケット代金のカード払いを希望の場合、NICOS・VISA・Master他提携カードの利用可)

■お申し込み・お問い合わせ

グランシップ友の会事務局
〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップ3階
TEL.054(203)5714 FAX.054(203)5716

〈友の会法人会員〉

静岡ガス(株)、(株)タミヤ、鈴与(株)、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・コム、(株)劇団ひまわり、(株)ステージ・グループ、静岡県ビルメンテナンス協同組合、静岡信用金庫、(株)ビー・エー・シー、(株)テレビ静岡、(株)静岡第一テレビ、コカ・コーラ センทรัล ジャパン(株)、ダイドードリンコ(株)、(株)イノエテック、(株)伊藤園、静岡エフエム放送(株)、(株)ニッセー日本平ホテル、(株)コアス、公立大学法人静岡文化芸術大学、(株)静岡朝日テレビ、(株)天神屋、(株)望月商事、学校法人常葉学園

財団法人 静岡県舞台芸術センター 〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5730 <http://www.spac.or.jp>

SPAC NEWS

SPACの名作劇場
2011年9月~12月
SPAC 秋のシーズン 2011

ぼくは劇場で知った。

生きるチカラを

2009年「走れメロス」(安田雅弘演出、写真撮影:橋本武彦)

『ガラスの動物園』 SPAC新作

2009年「プラスチック」の衝撃的な演出が記憶に新しい
ダニエル・ジャンストーがアメリカ演劇の金字塔に挑む。

10/22(土)・23(日)・29(土)・30(日)
11/5(土)・6(日)

各土曜日16時開演、各日曜日14時開演
静岡芸術劇場
演出・美術:ダニエル・ジャンストー
作:テネシー・ウィリアムズ 訳:松岡和子
出演:SPAC

『オイディプス』 SPAC新作

演劇? ダンス? マイム?
ギリシア悲劇の傑作を圧倒的なスピード感で描く。

11/26(土)・27(日)・12/3(土)・4(日)
各土曜日16時開演、各日曜日14時開演
静岡芸術劇場

演出:小野寺修二 作:ソポクレス
出演:SPAC

『走れメロス』 SPACレパートリー

友情物語に新しい光をあてる。
永遠の人気小説を舞台化した話題作。

静岡芸術劇場
構成・演出:安田雅弘 原作:太宰 治
出演:SPAC

■中高生鑑賞事業(一般販売1公演限定30席※9/21・22を除く)
9/21(水)・22(木)・27(火)・28(水)・29(木)・30(金)

※「走れメロス」は土日の一般公演はございません。

SPAC俳優による「朗読とピアノの午後」

11/12(土)・13(日)・19(土)
12/10(土)・11(日)・17(土) 各日15時開演
静岡芸術劇場 1階ロビー
構成・演出:大岡 淳 出演:SPAC

ロビー・コンサート「ひらたよーこ+矢野 誠」

11/26(土) 13時30分開演
11/27(日) 17時開演
静岡芸術劇場 1階ロビー

チケット
発売中

一般1公演 4,000円

- ペア割引/ペアチケット(2枚) 7,000円
- 学 割/大学生・専門学校生 2,000円
- 高校生以下 1,000円
- 〈朗読とピアノの午後〉1,000円(ワンドリンク付)
- 〈ひらたよーこ+矢野 誠〉1,000円
- 他、各種割引あり

※「ガラスの動物園」、「オイディプス」、「走れメロス」公演では、静岡県の中高生のための招待公演を行っています。限定30席を一般販売しております。詳細はお問合せください。

SPAC
SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術総監督 宮城聡

静岡県舞台芸術センター

SPAC

検索

チケットをご購入の際はSPACチケットセンターまで TEL.054-202-3399 (10:00~18:00)

TOPIC-1

出演者もお客さまも大いに感動! 音楽のチカラに感謝。



フィナーレ

8/7(日)大ホール・海にて開催された今年4回目となる夏の恒例人気イベント「グランシップ音楽の広場」。立ち見がでるほどの賑わいとなった。広上淳一・マエストロのもと、圧巻の300人のオーケストラ演奏をはじめ、合唱約350人、ダンスグループ約150人が参加。幸田浩子さん(ソプラノ)、錦織健さん(テノール)のデュエットや仲道郁代さん(ピアノ)・大谷康子さん(ヴァイオリン)による競演も行われた。東日本大震災の被災地より来静された山崎

ゆうかさん(唄)、菊地東修さん(尺八)による岩手民謡の演奏、清水南高の宮城嶋遥加さんの朗読もあった。司会の堀尾正明さんの絶妙なトークと進行で楽しい時間はあっという間に過ぎた。途中、川勝平太・静岡県知事も登場し、最後は出演者800人とお客様2,000人による「不尽の山を望む歌」の大合唱。迫力もさることながら実に和やかなムード。音楽のもつチカラと素晴らしさを改めて実感するステージとなった。

TOPIC-2

子どもも大人も世界の優れた舞台芸術に感銘



アフリカンフェアリーテイル

8/2(火)～5(金)グランシップ中ホール・大地、6階交流ホールにて開催された今年2回目となる「グランシップ世界のこども劇場2011」。世界各国から、乳幼児・児童向けパフォーマンス集団が来静。全公演で1,000人が来場した。会場には、スリングや



「雨だれ」

ベビーカーの親子連れも多く、子どもたちは真剣に舞台に見入りながらも時折歓声や笑声をあげていた。公演のほとんどが完売。子どもから大人まで楽しめる上質な世界のパフォーマンスに会場は酔いしれた。

TOPIC-3

世界からあらゆる頭脳が終結 国際学術会議「WCSMO」開催



日本初の開催となった第9回構造と複合領域の最適化手法に関する国際学術会議「WCSMO」。世界35カ国・約500人の第一線の研究者・エンジニア・教育者が参加し、6/13(月)～17(金)にグランシップ9階以上の会議室フロアにて行われた。会期中、富士山や久能山の観光も行われ、海外からの参加者に好評を博した。

TOPIC-4

時代を映す「わ・す・れ・ない 3・11」が最高賞を受賞!



8/27(土)～30(火)、展示ギャラリーにて「第61回静岡県水彩画協会展」が開催され、期間中延べ2,150人が来場した。一般、会友、会員、委員の4部門、入賞作品36点を含む271点が展示。最高賞の県水彩画協会賞は河野修治さん(静岡市葵区)作、東日本大震災をテーマにした「わ・す・れ・ない3・11」だった。

TOPIC-5

ますます輝きを増した 記念発表会



カメラマン:長谷川清徳

設立21周年を迎えた星野聡子モダンバレエスタジオ。その第15回発表会が6/26(日)中ホール・大地にて開催。半年間にわたり、リハーサルを重ねた作品が、池内英子氏のデザイン照明により、輝きを増す舞台となった。また多くのスタジオOGが集まり再会を喜びと共に、裏方としても後輩たちの舞台を支えた。

TOPIC-6

静岡のアーティスト応援企画 「アートコンペ2012」

「アートをもっと身近に!」—グランシップでは、昨年に引き続き、大ホール南側のショーウィンドウを飾る作品を募集する。入賞作品は来年3月からの1年間で4作品、3ヵ月ずつ展示される。

■ジャンル／不問。ただし未発表作品。展示レイアウトも審査に含む。

■募集資格／静岡県在住・在勤、出身者及び大学等に在籍した者等

■副賞／賞金30万円(展示・施工費込)

■審査員／秋元 雄史(金沢21世紀美術館 館長)
佐井 国夫(静岡文化芸術大学デザイン学部 教授)
福井 利佐(切り絵アーティスト)
田村 孝子(グランシップ 館長)
甲賀 雅章(静岡県文化財団 広報アドバイザー)

■募集締切／11月7日(月) ※当日消印有効

■アートコンペ 問い合わせ／(財)静岡県文化財団 総務課 電話:054-203-5710

E-mail:display@granship.or.jp

TOPIC-7

あなたもサポーターに。 2012年度のメンバー募集中!

「グランシップ」を支えるボランティアスタッフ「グランシップサポーター」の新規メンバーを以下の通り募集。性別・年代不問。気軽にご応募を。

※10/31(月)締切

●イベントサポーター 30人／イベント時に活動
公演時のチケットもぎり・場内案内・クローケ係

●託児サポーター 10人／イベント時に活動
公演時の託児対応 ※要保育士資格

●文化情報運営サポーター 5人／
静岡県文化情報サイト「しずおかの文化情報」企画・運営など

■対象／県内在住で18歳以上(高校生を除く)、
月2回以上活動でき、事前研修に参加できる方

■活動開始／2012年4月(登録期間は2013年10月末まで)

■応募方法／応募用紙に必要事項を記入の上、下記まで持参を。なお、託児サポーター希望の方は保育士資格証明書(写し)を、応募用紙とともに提出のこと(応募用紙はHPからダウンロードできます)。

■応募・問合せ先／〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4グランシップ内(3階事務局)
(財)静岡県文化財団 企画制作課サポーター担当
TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716
mail:info@granship.or.jp

グランシップの運営にボランティアの立場で参加する「グランシップサポーター」が、それぞれの心意気や感想、体験談をレポートします。

SUPPORTER's VIEW

グランシップサポーターの私

第11期サポーター イベント担当 国部 眞弓

4月「東日本大震災からの復興支援コンサート」が、中ホール・大地で開催され、大植英次さん、仙台フィルハーモニー管弦楽団、静岡交響楽団の皆様と満員のお客様との心が一つとなり「つながれ心つながれ力」の思いとともに幕を閉じました。

私は、この会場で大歓声のお客様と一緒に、サポーターをしている幸せと感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

今、10月のサポーター自主企画の「グランシップ懐かしの映画会」の開催に向け活動しています。各サポーターがチラシの作成や集客作戦を練りたくさんの人にフィルム映画を観て懐かしく楽しんでいただけるようにとの思いで…。

寂聴さんの本に「他人を幸せにする前に、まず自分が幸福になることです。幸せになると自然とパワーが溢れ出て、そのパワーによって周りの人も輝いて幸せになれるのです。」と書いてありました。私は、サポーター4年目の今年還暦をむかえます。まだまだ還暦。新しいことに挑戦し、サポーター活動での仲間達にも恵まれて幸せな毎日です。

これからもグランシップに来て幸せと感ぜてくださるお客様を笑顔で続けていきたいと思っています。



Report 053

READER'S VIEW

●伝統芸能シリーズに興味があります。どのように観たらよいかわからないので事前にレクチャーがあるのは心強いですね。クラシックの公演で、世界の素晴らしい方たちの演奏を身近にできるのは、グランシップならではのことだと思います。

（藤枝市・市川勝美さん）

●静岡に転居して4ヶ月。グランシップが何の建物なのかわからずにおりました。これからは機会をつくって伺いたいと思います。「G」は丁寧な冊子作りだと思います。編集の方々の思いが、誌面から伝わってきます。

（静岡市・福田了子さん）

●職場（専門学校）もこの4月に開校したばかりで何もかもこれからですが、生徒たちに生の芸術に触れてもらいたいと思っておりますので、是非グランシップにも連れて行きたいと思いました。公演の案内だけでなく、内容についても書いてあるので、観たい、聴きたいという気持ちがかかります。

（伊豆市・長瀬さつきさん）

●東京で行われている「パントマイムウィーク」を「パントマイムウィークinふじのくに」に！イギリス、フランス、ポーランドなど世界各国のパントマイムを観れたら素敵です。

（静岡市・辻村聡子さん）

★グランシップおよび本誌「G」に関する「ご意見」「感想」お問い合わせなど、皆さまからのお便りをお待ちしています。なお、お寄せいただいたお便りは、本コーナーに転載させていただくこともあります。転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

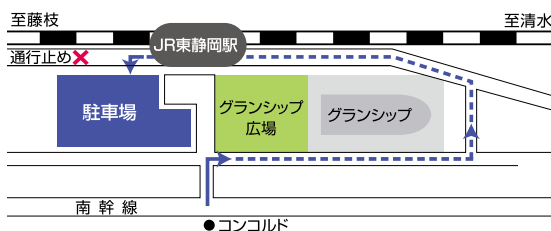
Editor's room.....

4月から子どもから大人まではじめての感動の出会いが経験できるグランシップでありたいと取り組んできたさまざまな事業ですが、夏のイベントでは職員も吹き飛ばうれしい記録ができました。4回目を迎えた「グランシップ音楽の広場」が公演1か月前に完売となり、「満員御礼」の垂れ幕を出演者全員の手作りで飾ることができました。「おとみち」はダンス事業の更なる向上を目指して、最後の回を迎えましたが、ダンス経験のない参加者も含む小学校5年生から65歳の方までが12回のワークショップを経て発表された作品は夢を持つことの大切さをテーマにしたストーリーのあるものになっており、出演された皆さんの感動が伝わるものであったことは大きな収穫でした。そして今年も12回のお稽古を経て実施された「能楽入門公演」も満席、小学生から大学生による謡・仕舞の発表と共に、山階彌右衛門先生の解説付き「殺生石」公演と言う初めての取り組みも能楽に馴染みのない方々にも親しみを感じられるものになったのではないかと感謝しております。

「私たちの舞台は教育ではありません。子ども相手と考えるのではなく、一人の人間に対するアートなのです。」昨年招聘したスウェーデンの児童演劇の俳優さんの言葉を忘れずに願っております。

グランシップ館長 田村 孝子

グランシップにお越しの際は、
混雑緩和のため、
公共交通機関をご利用ください。



●ACCESS 東海道新幹線（ひかり）で東京から1時間、大阪から2時間。JR静岡駅下車。東海道本線でJR東静岡駅まで3分。東静岡駅南口に隣接。

あなたの暮らしのいつもそばに。

貯金もローンもJAバンク。



 **JAバンク 静岡**
県下JA・静岡県信連

<http://www.jabank-shizuoka.gr.jp> または、インターネットで「JAバンク静岡」を検索!

JAバンク静岡

検索 




静岡県コンベンションアーツセンター

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者 財団法人静岡県文化財団 〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716

<http://www.granship.or.jp>